

日本人女性の乳癌発症率は年々上昇してきています。現在、生涯に乳癌にかかる率は30人に1人とされており、胃癌、大腸癌について第3位ですが、2015年までに、1.6倍増加し胃癌を抜いて1位になると予想されています。一方、アメリカ、カナダでは現在乳癌の罹患率、死亡率ともに減少傾向にあります。その理由は、第1に検診を受ける人の割合が約80%と高いこと、第2にマンモグラフィ（X線撮影）の普及によるものであるといわれています。乳癌は早期であれば治りやすい癌です。そのため、検診で早い時期に乳癌を見つける必要があります。

2000年に厚生省より、乳癌検診には視触診にマンモグラフィを併用すべきことが通知され、これによって全国各地で新しいガイドラインによる乳癌検診が行われつつあります。

マンモグラフィとは、乳房のX線撮影のことで、乳房専用の装置を使って、乳房を2枚

の板で圧迫しながら撮影します。乳房は立体的で厚みもあり、そのまま撮影すると正常乳腺や脂肪などの影響で、腫瘍があっても写し出されにくい。このような方法がもちいられます。しこりを作らない乳癌（乳癌にともなう微細な石灰化）など、視触診で発見が難しい乳癌の発見に役立ちます。なお、X線検査なので放射線被曝が心配されますが、被曝の線量はほとんど問題のない量といえます。

鳥取市では、このマンモグラフィと視触診の併用の乳癌検診を2005年より行っています。この検査で異常があれば、精密検査施設で超音波検査など、追加の検査を受けることになります。まずはみなさん、マンモグラフィによる乳癌検診を積極的に受け、早期発見に努めましょう。

小寺 正人
市立病院 診療部副部長（外科）

問い合わせ先

市立病院総務課 ☎(0857)37-1522

環境大学

シリーズ vol.5

環境政策学科 / 環境デザイン学科 / 情報システム学科

http://www.kankyo-u.ac.jp/

E-mail:nyushi@kankyo-u.ac.jp

■問い合わせ先
入試広報課

☎(0857)38-6720

TOPICS

トピックス

1期生が社会に羽ばたきがんばっています。
2期生も就職活動で大健闘！

昨年4月に社会に羽ばたき奮闘中の1期生に続き、2期生の就職活動は終盤戦。バブル期並みといわれている採用市場ですが、地方ではまだまだ厳しい雇用情勢が続いています。その中であって、2期生の就職内定率は昨年（最終93.8%）とほぼ同率で推移しています。がんばっている卒業生と卒業予定の学生のコメントを紹介します。

市民の「水環境」を守る業務に TUES での学びが生きています

就職 ■鳥取市役所
大塚 愛子 さん 環境政策学科（卒業生）
鳥取西高等学校出身

大好きな鳥取の環境保全に貢献できる仕事がしたいと考え、公務員試験を受験しました。市役所では、環境政策課で公共用水域と事業場排水の水質監視業務を担当していま

す。今、TUES（鳥取環境大学）での学びが仕事に生きていることを実感しています。今後は大学時代に学んだことをさらに生かして、市民のみなさんが安心できる水環境をはじめ、環境保全業務全般に携わっていきたいと思います。

古い木造の民家に、もう一度生命を吹き込みたい

内定 ■総合建設会社

波里 匡彦 さん 環境デザイン学科（4年）
兵庫県立明石城西高等学校出身

大学では古い民家を再生して、人が集うカフェをつくるといったプロジェクトを行ってきました。自分のアイデアが実際にカタチになるのが、とても楽しいです。当面の目標は一級建築士の資格を取得すること！自分自身の手で、環境に配慮したみんなにやさしい建築物をたくさんつくっていきたくです。

希望の IT 企業内定の決め手は 学外におよぶ幅広い実践的経験

内定 ■情報システム会社

山本 浩樹 さん 情報システム学科（4年）
大阪府・東海大学附属仰星高等学校出身

入学時、コンピュータに関する知識は皆無でしたが、4年間でシステム開発や運用に必要な知識と技術を身につけ、希望の IT 企業に内定が決まりました。今は映像通信に関する研究をしています。また、大学が行う高校の遠隔授業を手伝ったり、「とっとり産業技術フェア」に参加したりと、実践的経験も積んでいます。将来は、人と環境のよりよい関係を築くシステムを開発したいです。